

(7) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

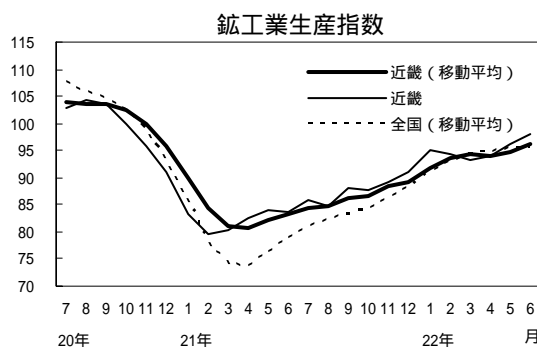
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年5月)	今回(平成22年8月)	
住宅建設	減少	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

一般機械は、半導体製造装置がアジア向けに堅調であったことを主因に増加している。化学は、プラスチックを中心に減少している。食料品・たばこは、酒類の大幅な上昇を主因に増加している。電気機械は、7月の夏商戦に向けてセパレート型エアコンが増産されたことを主因に増加している。鉄鋼は、自動車や家電向けを中心に増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。
2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

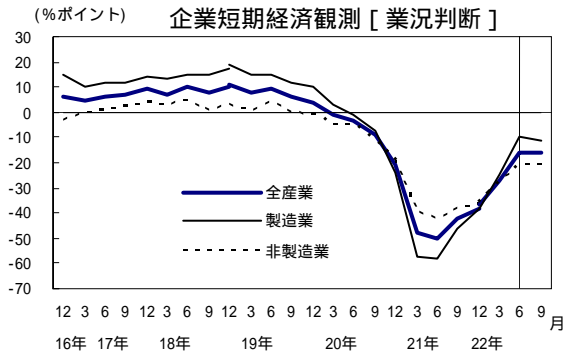
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	17.0	11.7	5.4	7.1	3.5
化学	14.5	4.1	1.1	4.1	1.7
食料品・たばこ	9.1	0.1	3.8	4.8	0.0
電気機械	8.5	2.3	3.1	1.1	9.7
鉄鋼	7.5	15.6	1.4	4.4	0.2
鉱工業	100.0	5.6	2.0	2.0	1.5

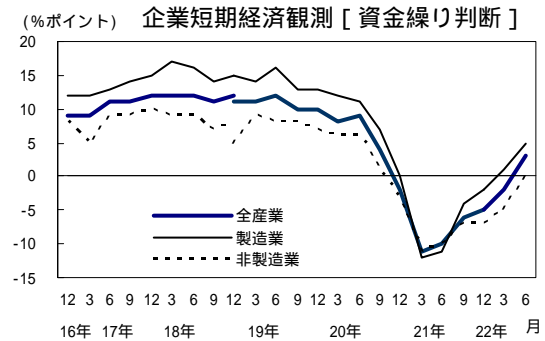
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4~6月期は速報値。

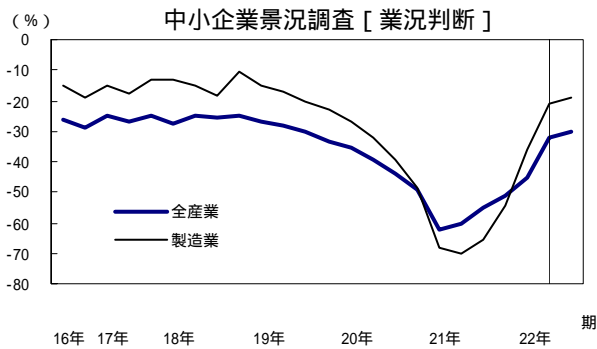
(2) 業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

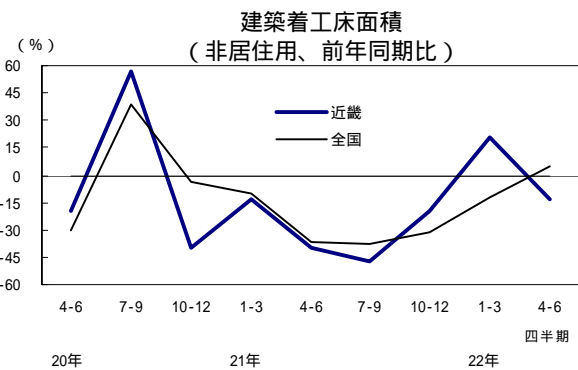
「猛暑により、エアコンや冷蔵庫などの白物家電は好調に推移しているが、テレビなどは台数ベースでは好調であるものの、単価下落が目立つ状況となっている(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	18.2(2.3)	2.9(4.1)
製造業	29.4(1.0)	5.8(7.6)
非製造業	7.6(3.1)	0.8(1.7)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

大型小売店販売額

百貨店は、4月は、雨が多く寒暖の差が激しい天候不順の影響で、衣料品が不調であったことなどから、前年比の減少幅が拡大した。5月は、ゴールデンウィークや休日が天候に恵まれ、初夏物衣料に動きがみられたことや、前年のインフルエンザによる落ち込みの反動などにより、前年比の減少幅が縮小した。6月は、中元の売上計上基準の変更を主因に、前年比の減少幅が拡大した。日本百貨店協会によると、7月の売上高は、大阪市、神戸市、京都市で、それぞれ前年同月比2.7%増、5.0%増、0.1%減となっている。

スーパーは、客単価の下落が続いていることや、5月に前年のインフルエンザによる特需の反動減があったものの、6月に気温が高かったことや、ワールドカップの影響により、夏物食品に動きがみられたことなどから、前年同期比の減少幅は縮小した。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「月後半からの猛暑により冷菓やドリンク類の売上は増加したが、あくまで天候による一時的な好調にとどまる。弁当類などの低価格化も進んでおり、景気が良くなっている感はない(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

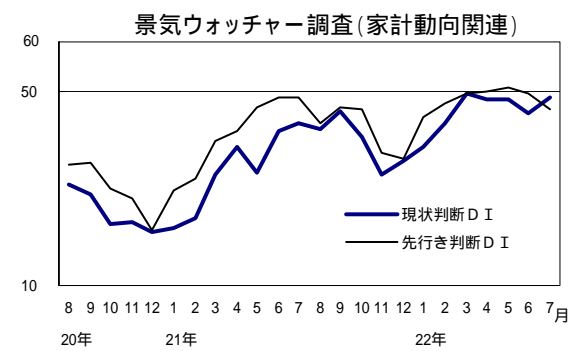
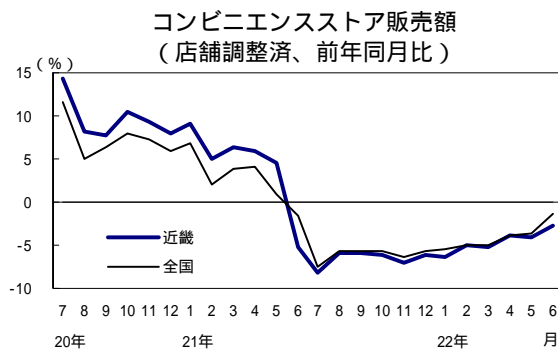
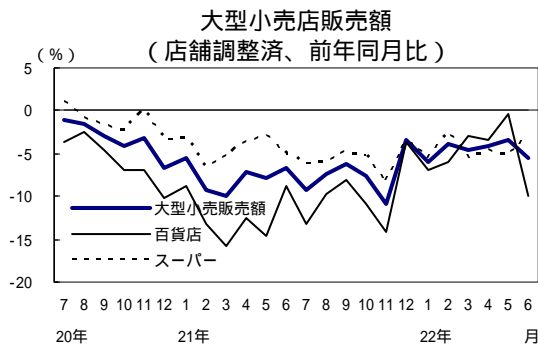
(前年同期比、%)

	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月
大型小売店	7.7	7.1	4.8	4.4
百貨店	10.7	9.0	5.3	4.7
スーパー	5.6	5.6	4.6	4.2
乗用車	1.5	20.7	24.5	20.9
景気ウォッチャー	43.8	36.2	43.6	47.3

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

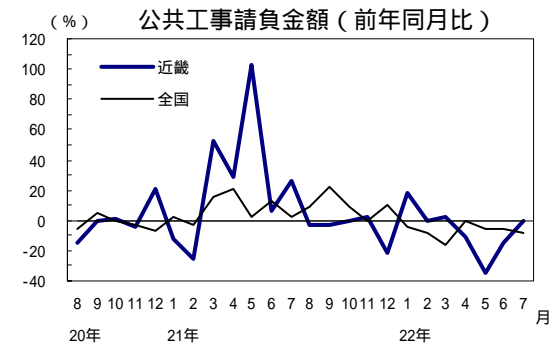
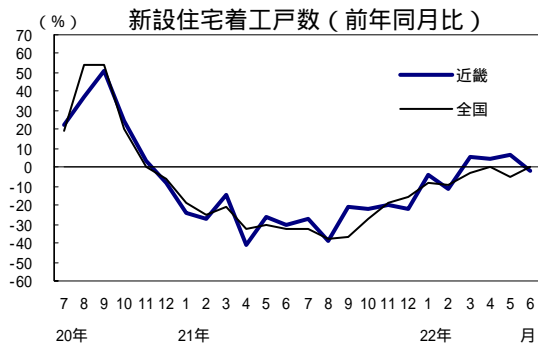
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は増加している。

持家と分譲が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

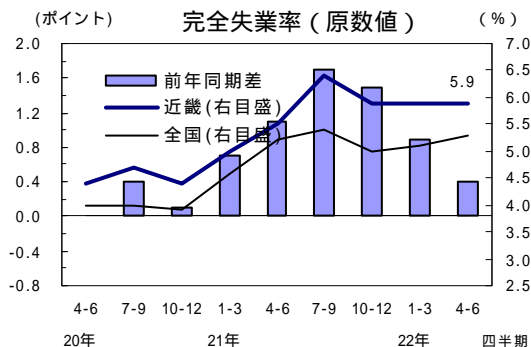
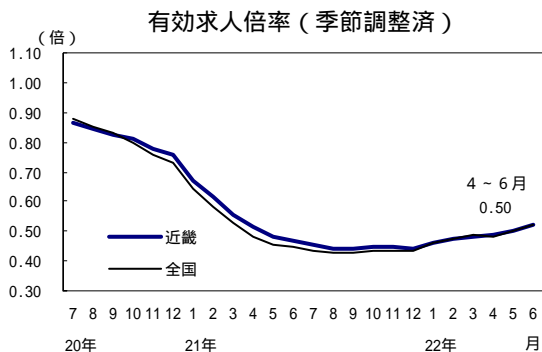


3. 雇用情勢等

(1) 厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

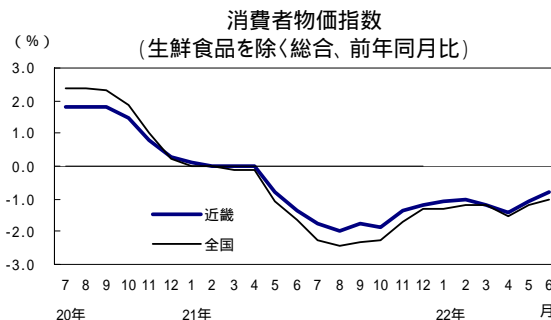
「関西地区の新卒採用は、前年に比べて内定者が減少している。企業は採用枠を持っているものの、厳選して採用する傾向が進んでいるため、就職活動が長期化している (民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月	22年7月
倒産件数 (前年比)	1,060 8.8	941 6.6	945 12.6	936 15.2	272 27.1
負債総額 (前年比)	1,647 33.1	4,418 37.4	2,021 49.1	1,665 29.3	393 46.5



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・平城遷都 1300 年祭の開催で宿泊客が増え、例年にない好調となっている (観光型ホテル)

<先行き>

・今年の残暑は厳しいと報じられている。残暑が長引くと、冬物シーズンまでの期間が非常に厳しくなる (一般小売店 [衣服])

